

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 1月3日は、冬型の気圧配置が続くが、気圧の谷が東日本付近を通過する。
- 4日から5日は、北日本中心の冬型の気圧配置が続くが、5日は高気圧が日本の南を東へ移動する。
- 6日は、低気圧が日本海と本州南岸をそれぞれ東進する。
- 7日は、低気圧は日本の東へ進み、冬型の気圧配置となる。

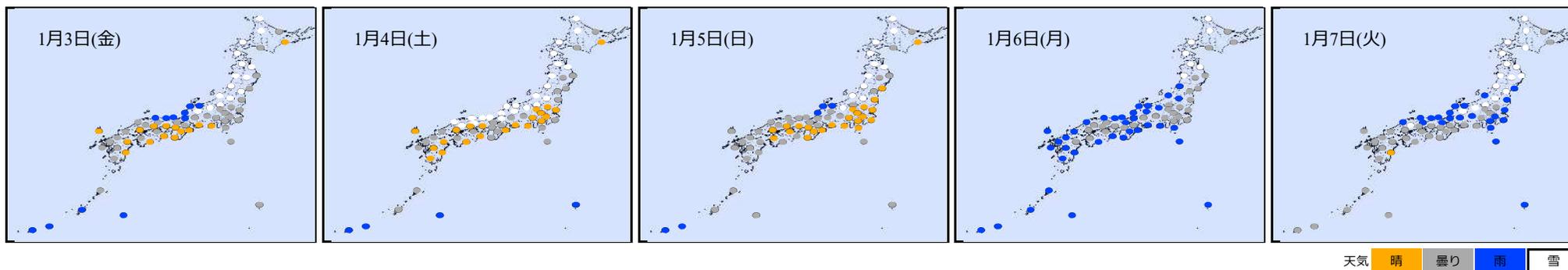
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 特になし。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

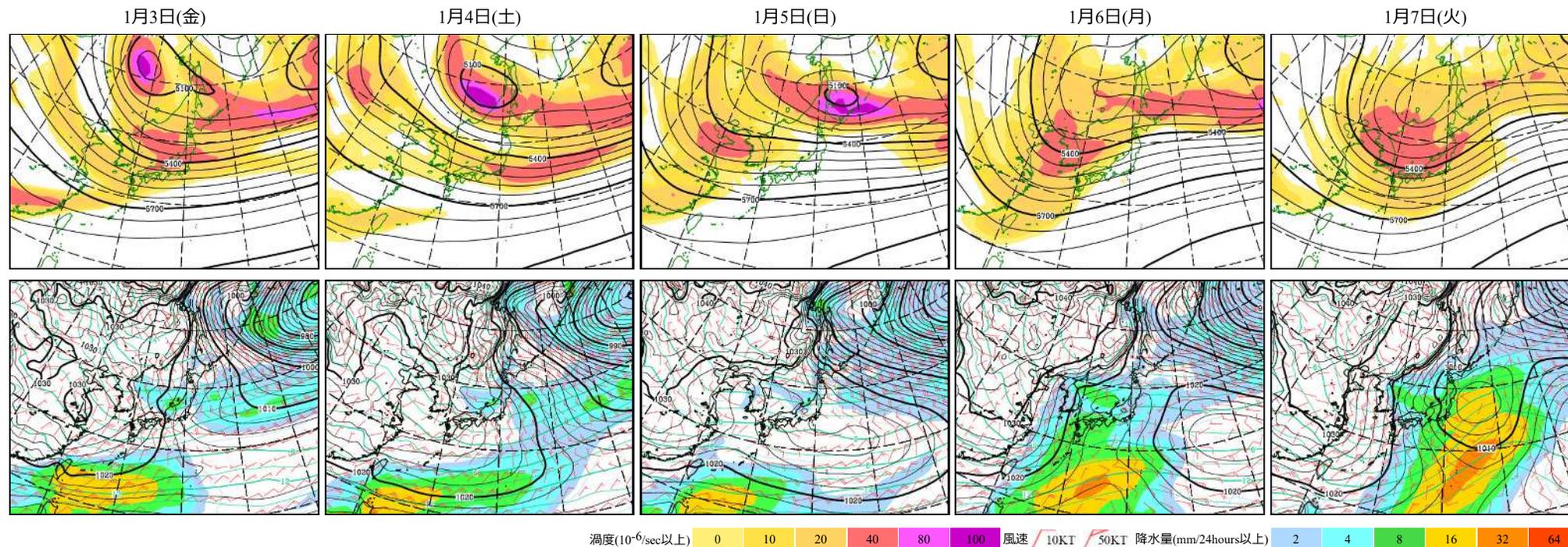
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

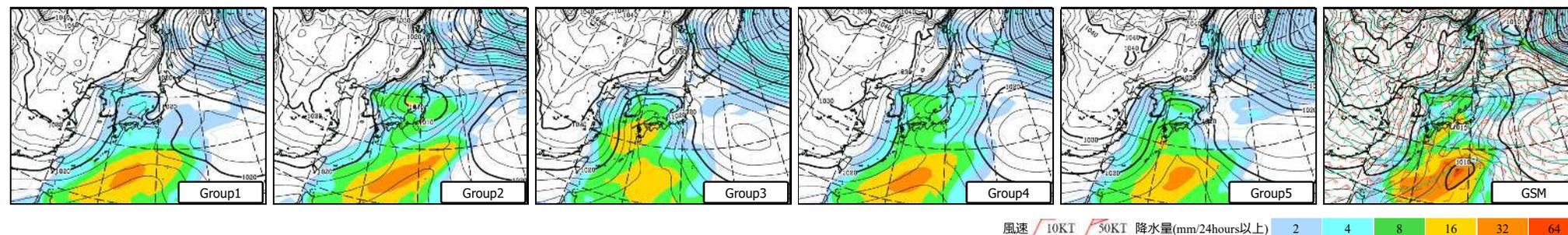


- 北日本と東日本から西日本にかけての日本海側は、曇りや雪または雨の降る所が多い。
- 東日本から西日本にかけての太平洋側は、5日にかけては晴れまたは曇りの所が多いが、6日と7日は曇りや雨の降る所が多い。
- 沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆1月6日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料 (ENS) は、5日にサハリン付近へ進む寒冷渦が深くなった。また、6日から7日に黄海から日本海へ進むトラフが深くなり、日本海と本州南岸に予想される低気圧が明瞭となって、東・西日本太平洋側の降水確率ガイダンスが増加した。
- 各モデルとも、3日から4日は冬型の気圧配置が続き、5日は黄海付近や東シナ海で低気圧が顕在化し、6日に低気圧が日本海と本州南岸を東進する予想はおおむね揃っているが、6日頃の降水予想にはモデル間の差が見られる。
- 期間の終わりはスプレッドが大きく、5400mの特定高度線のばらつきが見られる。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考えるが、6日の降水範囲については初期値変わりが大きいことや、海外モデルの予想を参考に西日本でやや割り引く。